

施策評価シート（令和2年度実績）

施策名 29 地域の歴史的遺産を守り生かす

		施策コード	040029
1. 施策の体系と担当課			
第5次総合計画	将来像	4 ひとと地域の資源を生かし にぎわいを生み出すまち	
主管課	教育部 社会教育課		
関係課			

2. 施策の目標	
10年後の目標	
市内に残る歴史的遺産の価値を市民が認識し、行政だけでなく、地域の人々や各種団体が、歴史的遺産の保護と活用を担っている。また、その活動を通じて地域コミュニティが活性化し、多数の人々にぎわっている。	
10年後の目標に向かった主な取組み	
市の取組み	
○地域文化財の調査結果の公開や文化財の指定・登録など、文化財の保存を進め、市民の文化財保護の意識の向上につなげる。 ○あらゆる世代の人々が地域に根ざした歴史的遺産やまち並みの価値を再認識し、守り親しむことができるような取組みを行う。 ○寺内町や旧家住宅など、地域文化財を活用した地域づくりを推進する。 ○岩橋善兵衛の功績が影響を与えた学術分野にも研究を広げ、その功績について情報発信する。	
市民・団体・事業所等の取組み	
○歴史的遺産を保存・活用する意識を高めるとともに、後世に伝えるべき伝統文化の継承に取り組む。 ○所有者自らが歴史的遺産の保存・活用を行う。 ○地域住民を主体とする団体は寺内町を中心とした空き町家の効果的活用に取り組む。	

3. 施策を取り巻く状況	
社会環境や法令等の変化	
文化財保護法の改正（平成31年4月1日施行）に基づき、大阪府は文化財の保存と活用を体系的・計画的に進めていくために、令和2年3月「大阪府文化財保存活用大綱」を策定した。本市においても、市内に存在する歴史的遺産を把握し、政策・観光部門等関係機関と連携して、文化行政全体としての一体性を図り、総合的・計画的な保存・活用に取り組む必要がある。	
新たな市民ニーズ	
文化財を次世代に継承すること。 学校等と連携し子どもたちに郷土愛を育むこと。 文化財の防災・防犯に対する意識の向上、設備整備などの対策を行っていくことが望まれている。	

4. 施策にかかるコスト								
			単位	R元予算	R元決算	R2予算	R2決算	R3予算
コストの内訳	投入人員	正職員数	人		2.06		1.52	
		会計年度任用職員数			2.0		1.88	
	人件費	直接人件費	千円		29,006		20,573	
		間接人件費			886		1,507	
	直接事業費			11,892	10,131	9,442	8,225	11,089
	間接事業費				765		2,332	
	フルコスト			11,892	40,788	9,442	32,637	11,089
財源内訳	使用料及び手数料		千円					
	国庫支出金							
	府支出金							
	市債							
	その他			100	8,630	100	7,828	100
	一般財源1（＝フルコスト－特定財源）			11,792	32,158	9,342	24,809	10,989
	一般財源2（＝直接事業費－特定財源）			11,792	1,501	9,342	397	10,989
備考								

5. 施策の成果指標							
成果指標1 歴史・文化に関する行事への参加人数（セミナー・古文書関係講座）							
単位	目標年度	目標値	指標数値の目指す方向	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
人	毎年度	900	増加	698	306	700	800
成果指標2 文化財の指定・登録件数							
単位	目標年度	目標値	指標数値の目指す方向	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
件	毎年度	280	増加	250	249	251	252

成果指標3							
単位	目標年度	目標値	指標数値の目指す方向				

6. 施策を構成する事務事業ごとの評価結果（令和2年度実績）										
事務事業名	最重要指標			事業費 人件費				方向性		所見
				平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度(見込)			
埋蔵文化財発掘調査事業 (社教)	届出、依頼数と調査件数の係数			555	365	435	638	成果	簡易評価	
	R2実績	17.4	%					資源配分		
	最終目標値に対する達成率		-	3,077	2,814	4,540				
文化財保護事業 (社教)	講座等の参加者数（講師派遣分）			1,171	1,456	1,215	3,372	成果	A：向上を図る	小学校で副読本「貝塚学」等を用いた郷土学習を実施し、文化財に関する市民講座等へ講師として学芸員が向き、文化財に対する理解促進を図った。また、市内文化財の状況を巡回確認により把握し、文化財の周知・保護に努めた。
	R2実績	183	人					資源配分	B：現状維持	
	最終目標値に対する達成率		22.8%	8,721	7,167	4,214				
郷土資料室事業 (社教)	展示会観覧者・かいつか歴史文化セミナー・古文書講座等参加者数			5,138	4,770	4,600	4,674	成果	A：向上を図る	新型コロナウイルス感染症の影響の中、感染防止対策を講じ、企画展・特別展、セミナーを実施した。今後もテーマや改善点を検証して、さらに文化財への理解が深まる展示内容とする。
	R2実績	2,243	人					資源配分	B：現状維持	
	最終目標値に対する達成率		52.1%	11,956	11,761	9,540				
貝塚市歴史展示館事業 (社教)	延べ入館者数			1,911	2,040	1,975	2,405	成果	A：向上を図る	新型コロナウイルス感染症の影響の中、感染防止対策を講じ、東京オリンピック関連の企画展を開催し、臨時休館中は、展示内容をYouTube等で配信し情報発信に努めた。また泉州地域の博物館と共同で事業を実施し、館事業の充実に努めた。
	R2実績	1,176	人					資源配分	B：現状維持	
	最終目標値に対する達成率		42.0%	3,394	3,313	3,786				
孝恩寺修理事業 (社教)				0	0	3,196	0	成果	評価対象外	
	実績							資源配分		
	最終目標値に対する達成率			0	0	4,536				

7. 施策の事後評価	
施策指標の分析（達成状況）	歴史・文化に関する行事への参加人数は、新型コロナウイルス感染症の影響で大きく減少した。
構成事務事業に課題はないか	妥当である。
実施主体（国・府や地域・事業所などの役割分担）に課題はないか	妥当である。

8. 今後の方向性
文化財の保護・調査だけでなく、市の歴史的遺産の価値を広く周知・活用し、地域の活性化にいかしていく。